

## 東京女子大学 現代教養学部 国際社会学科 国際関係専攻

現代教養学部は、教養教育と専門教育を融合させたりリベラル・アーツ教育を展開しています。国際社会学科国際関係専攻の特徴は授業の多様性。日本、アメリカ、アジア諸地域の歴史、文化、社会などについて理解を深め、国際社会に貢献できる人材を育成します。



■大学生  
村井桃佳 さん



■先生  
黒川修司 先生



■卒業生  
青井優佳 さん

### CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

#### ●プロフィール

東京女子大学 現代教養学部の位置づけを教えてください。



■先生

もともと文理学部と現代文化学部の2学部であったものを、2009年に統合して本学の現代教養学部が生まれました。様々な学問をバランス良く学ぶという、リベラルアーツ教育を特徴とした学部です。

私から見た特徴は、教員の質がとても高くなおかつ教育熱心なことです。手厚く学生に対応しており、授業はもちろんですが各自が持っているオフィスアワーでいくらかでも質

問することができます。私は現在学部長という立場ですが、必須科目を教えており、あまりに学生が訪ねてくるので、その時間は研究室から逃げ出したいほどです（笑）。

国際社会学科の学びの特徴を教えてください。

■先生

先ほど話に挙げた2学部の両方に社会科学系の分野がありました。それを統合したものが国際社会学科で、国際関係、経済学、社会学の3専攻があります。国際関係専攻は、国際関係学、歴史学

などを基本に世界各地の歴史、文化、政治思想などを総合的に学び、経済学専攻は、グローバル経済に対応できる人材育成を主眼に、経済社会問題を論理的に分析できる力を養います。そして、社会学専攻では、1年次の演習、2年次の社会調査、3～4年次の調査実習などを通じて、私たちの生活の周囲にあるものに疑問を投げかけ、その本質を探っていきます。どの専攻でも、現代社会を国内から世界諸地域までのスケールで学び、世界で今起きている問題に多面的な視点で向き合う思考力を養うことができます。

## ●大学生活について

### 東京女子大学に入ろうと思ったきっかけは？

#### ■大学生

国際関係学が学べるところを最優先で探していました。しかし、その中で自分がどういったことを学ぶのかについてはぼんやりしたものしかなく、ほかにも世界の諸地域やジェンダーといった学問が学べるということで、自分の興味を広く探ることができることが決め手になりました。また、オープンキャンパスではありませんでしたが、個人的に東京女子大学まで足を運んで、キャンパスがとてもきれいだったことと周囲の学習環境が良いなと思いました。



両親や祖母の世代からは、とても良い学校だからというアドバイスがありましたが、最終的には自分の意思で入学を決めました。

#### ■卒業生

私は大分県の出身ですが、東京に憧れがあって絶対に東京の大学に行く決めていました。学びの内容では、私も村井さんと同じように国際政治学を学べる場所を探していて、東京女子大学とほかのいくつかの国立大学や私立大学を視野に入れていました。

両親からのアドバイスもあって、特に父は「東京女子大学は先生たちの面倒見が良いのでは」と言ってくれ、その時はピンときませんでしたが入学してから実際に面倒見が良いと感じました。

### 現在はどうのような勉強をしていますか？

#### ■大学生

黒川先生のゼミに入ると、3年生の時点で自分のテーマを決めて論文を書かなければなりません。この研究論文を4年生の卒業論文につなげられるようにすることが理想です。

3年次の前期の段階では、ベトナムと人身取引の問題に取り組んでいましたが、後期ではベトナムの政治体制について研究していました。ベトナムは1党支配体制ですが、中国などに比べて暴動やデモが表面化しないのはなぜだろうかという疑問から、1党支配体制の正統性を作り上げた過程を調べていきました。ベトナムをテーマにしたきっかけは、個人的に訪れたことがあったからです。論文を書くことになれば直接フィールドワークに行く方もいます、文献を集めて書いていくことになるので、また訪れることもあるかもしれません。

#### ■先生

去年から始めたプログラムで、国連の研修も一緒に行きましたね。私のゼミに所属しているかどうかは関係なく、学部全体から参加者を募って24名の学生を連れて行きました。国連のブリーフィングは日本語と英語の両方なので、それに備えた事前学習をして、帰国後は授業で指導後にレポート提出を課しました。

## ■大学生

はい、夏休みにニューヨークの国連本部の研修に参加して職員の方にお話を聞く機会がありました。事前学習の後、8日間の日程でニューヨークに行ってきました。

## ■先生

正式名称は「総合教養演習（女性の生きる力）」と言いますが、これは本学の100周年を記念したプログラムとして実施しました。学科の科目ではなく全学共通カリキュラムに「女性の生きる力」に関する演習がいくつかあり、その1つが国連研修を伴うものです。国連のブリーフィング聴講のみで単位を出している大学もありますが、本学では内容が分からなければそれはできません。しかし、遠くニューヨークまで行って単位が出ないのでは学生たちがかわいそうなので、ブリーフィング内容の把握と同時に、事前と事後の講義内容を充実させて2単位になるように要件を満たしました。2015年に行われた初年度の研修では私が24名の学生に同行し、そこで一緒にブリーフィングを聞いてみると、人口と発展、女性の権利、PKO、人道問題など、とても意味のある内容を含んでいました。そのため、2年目はこれを踏まえて事前事後の講義時間を削減しようと考えています。4～5年間継続的に実施する予定で、ほかの大学にはあまりない、本学ならではの特色になると期待しています。

## 東京女子大学の学生の印象を教えてください。

### ■大学生

堅実な学生が多いのではないのでしょうか。

授業の面では、東京女子大学では1年次からゼミのような少人数形式が多く、先生が与えてくださるテーマに沿って本を読み、それに関する発表をする機会があります。先生は本当に面倒見が良いと思います。今所属しているゼミの先生は、書いた論文にすべて赤ペンで修正を入れてくださいます。大学の授業はもっと大人数で受けるイメージだったので、ここまで面倒見の良い先生がいることに感激しました。



### ■卒業生

学生たちは授業を休むこともなく、とても真面目に取り組んでいました。高校生の頃は怠けてしまうことがありましたが、この大学で勉強するうちに感化されて、今まで以上に時間厳守で授業にしっかり出席できるようになりました。

友人の印象としては将来の目標を持っている人が多かったです。早い人は1年次から留学したり、インターンシップに行ったり、資格の学校に通ったりという人もいました。

目標が叶った人に対してはとても温かくお祝いしてくれましたし、一緒に頑張っていこうという姿勢の人が多く、安心して目標を話すことができました。

### ■先生

真面目で地道に物事に取り組むことができる学生が多いです。しかしながら、指導されたことから自分独自のものを選び出して、追究して学んでいくことが不得意だなどという印象もあり、ポテンシャルは高いだけに物足りなさを感じることもあります。

## そういった能力を伸ばすためにインカレセミナーに参加されているそうですが？

### ■先生

私のゼミでは他の大学と合わせて、10大学のインターカレッジゼミという形式で「十大学合同セミ

ナー」に参加しています。ここに参加することで、討論やプレゼンテーションの能力を高められるようになります。学生を120名くらい集めて、3～4月まで週2回、1回につき3時間程度勉強しますが単位にはなりません。毎年テーマは違いますが、今年は「グローバル化の光と陰」です。テーマに対してセクションごとに勉強をして、中間発表を私たち教員が講評し、その結果から再度勉強したものを7月に行われる総括合宿で発表して、報告書にまとめます。最終的には相当厚い論文（各セクション20,000字）を仕上げます。これは正直に言って厳しいですよ。

■卒業生

きついですね（笑）。

■大学生

15,000～20,000字くらいの論文を、皆で書き上げることになると思います。

■先生

“皆で書き上げる”というのがなかなか大変ですね。セクションに属するメンバーもたいへんですが、皆をまとめ上げなければならないセクションリーダーがさらにたいへんです。十大学合同セミナーに参加するのは学びの意識が高い学生ですし、学生各々の主張があります。この役割を担ってくれた学生が4年生になっても残り、また20名くらいで運営してくれています。学生主体のひじょうに活発で良い組織です。

●就職活動、仕事について

卒業後は大学院に進学されましたね。

■卒業生

将来的に研究職を志望しているのので、他大学の大学院に行きたいという気持ちがありましたし、黒川先生に進路を相談した際には、留学を考えてみてはという提案もいただきました。しかし、10月に進路を決めて1月に試験を受けるのは無理があるので、まずは自分の慣れ親しんだ場所で2年間修行を積んで、その後に大きなキャリアにつながるような大学院を考えるという希望を持って、まずは東京女子大学の大学院に進学しました。



■先生

卒業論文の提出が12月ですからギリギリでしたね。

どのようなことを研究されていますか？

■卒業生

私は黒川先生についていた頃は国際関係専攻で、「サイバーテロ」を研究していました。大学院に進学する際に社会学に専攻を変えました。研究のテーマは「身体と社会」を扱っており、例えばジェンダー、障害、疾患といった身体的なテーマと、それが社会的な環境の中でどのような影響を受けるのかということを研究しています。

■先生

青井さんは、私のゼミにいた時に統治理論の1つとして、秩序のないところにどのように秩序を作るのかを研究していて、そのうちに規範や法で決められてはいないが国際社会が遵守しているルールの問題に突き当たりました。それを、社会学的に捉えて勉強したいという経緯で社会学に転向し

ています。

#### ■卒業生

私はサイバー空間の主体は実体がないものだと考えていました。しかし、研究を進めていくうちに、サイバー空間を考察するには実体があるものとなないもの、バーチャルなものトリアルなものとの境界線について、もう少し深めて考えた方が良いという気持ちが生まれて、より研究テーマに近いと感じられた社会学に分野を移すことにしました。

### 大学院卒業後の進路について教えてください。

#### ■先生

青井さんはこのあとの進路も決めていて、東京大学の修士課程に行きます。

#### ■卒業生

もう一度修士課程に行くことは、今の指導教員の先生のアドバイスです。博士課程に行くと「日本学術振興会特別研究員（DC）」という制度があり、選ばれれば研究費をいただきながら博士として研究ができますが、それを取得するためには論文や学会で発表している業績があると有利です。そのため、もう一度修士課程に進み、業績を積むことでその後のDCにつなげたいという希望があります。東京大学の博士課程に外部から入るのは至難の技だと聞いていたため、まずは修士課程で入学し、その後に博士課程に臨む方が、遠く思えても近道だという助言がありました。



ポストドクター（ポスドク）の問題などがありますが、私はうまく行くと思ってやっているのあまり心配はしていません。これは自信があるということではなく、ポスドクで金銭的な苦勞があったり将来的に専任教授になれなかったりという可能性もあります。しかし、今それを考えてもしようがないですね。今のうちにいろいろな大学の方と知り合ったり、自己的人脈を増やしていったりということを考えています。

#### ■先生

ある年はゼミ全体で12名の卒業生がおり、内3名が大学院に進学し、教育学、社会学、もう1名が法科大学院に行っています。

専攻全体では毎年100名以上の卒業生を輩出しています。卒業生は皆しっかりしていて、それが評価されているため、就職氷河期と呼ばれた時代でも95%以上の就職率を保っていたのだと思います。ですから、「君たちが良いから採られているわけではないですよ」、「すべて卒業生のおかげなので、今後は君たちがしっかりしないと困りますよ」という風に常に言っています（笑）。

国連ブリーフィングは、本学の卒業生とのコネクションもあって実現したプログラムですが、卒業後に直接国連に就職するというケースは希です。何か別の職業、企業を経てということになるでしょう。ただし、海外に進出している学生自体は増加していますし、大学側としても5万人もいる卒業生のデータをどのように把握するかが課題です。どこかで一元的に卒業生のデータを把握することができれば、就職のアドバイスや実務的に働いている方に講義に来てもらうなど、様々な貢献していただくことができると考えています。

## ● 5年後に向けて

### 将来の夢はなんですか？

#### ■大学生

今は就職活動を目の前にして現実を突きつけられている感じです（笑）。私は中学生の頃から国際関係を学びたいと思っており、今でもそれは一貫した思いとしてあるので、可能であれば国際的な舞台で働きたいと思っています。短期の語学留学でアメリカのサンディエゴに行ったのもその準備のためです。しかし、具体的な職業や企業となると考えるのが難しくなります。今考えて



いるのは損害保険や生命保険を扱う企業で、海外に向けて仕事をしていきたいなと思っています。

#### ■卒業生

私はずっと研究を続けたい気持ちがあり、希望としては大学で教えるような人になりたいです。夢というよりは目指す理由ですが、私が身体と社会について学んでいるのは、自分が中学、高校時代に体調を崩して学校に行けない時期があり、身体の状態と社会的な制度の隙間に落ちてしまうような人たちが、私の研究で少しでも救いを得られればという希望があるからです。私自身の経験を少しでも社会に還元できれば良いなと考えています。

#### ■先生

高校時代は医者を目指していました。そこから現在の国際関係に移ってきたのはすべて偶然です。

歴史が好きだったため東京大学の文Ⅲに行って、西洋史を勉強したいと思っていました。しかし、残念ながら現役で落ちて、浪人した時に大学紛争で入試がありませんでした。こうした事情がなければ文Ⅲに行ったでしょうが、比較的近い場所にある横浜市立大学に行きました。1年目はリベラルアーツですが、2年目から専攻を決める矢先にまた紛争に遭遇しました。その際に先輩から国際関係は就職率が良いと聞いて、その道に進みました。

自ら選び取った学問ではありませんでしたが、取り組んでいるうちに興味は出てきました。「第一次世界大戦の勃発過程」という卒論では、コンピュータによる統計学を取り入れましたが、所属が歴史系のゼミだったため、この理論を理解できる人間がいませんでした。指導教官には迷惑だったかもしれませんね（笑）。そのため、自分で研究するしかなく、そうしているうちに面白さに気づいていったのかなと思います。その結果、一橋大学の大学院に進み、研究者の道を選びました。

今の私に夢はありません。おおよそやりたいことはできたので、残っているのは社会還元だけです。自分の研究してきたことを、どのように社会に伝えて役立ててもらおうかということです。

## ● 高校生へのアドバイス

### もしも高校1年生に戻れるとしたら何をしたいですか？

#### ■卒業生

高校生の頃はたくさん勉強をしましたし、放課後に友人と遊ぶことも多かったので生活自体に後悔はありません。私がおっと早くやっていたらよかったと思うのは、昔の文学、クラシック音楽、美術の知識など文化的な作品に触れて、教養というものを身につけておけば良かったと思います。美術館に行くこともありますが、楽しみ方が分からなかったり、絵ができた時代背景を知らなかったりということがあります。専門的な知識だけがある人よりも、幅広いことを知っていて引き出しが

多い人の方が魅力的だなと感じます。

#### ■大学生

私も高校生時代はバスケットボール部でキャプテンを務めるなど文武両道で、生活は今と同じくらいに充実していました。

高校1年生でやっておけばよかったと感じたのは大学受験の時でした。学校の勉強をおろそかにしていたわけではありませんが、高校で課される小テストなどはあとで生きてきます。その時々で頑張っていれば、受験の時に一気に詰め込むこともなかったと思います。国際政治に進みたいのであれば、世界史などの知識はあって困ることはないので、真剣にやっておけばよかったと思います。

### 大学受験の勉強で工夫していたことはありますか？

#### ■大学生

高校までの通学時間が30分程度あったので、その時間に単語帳や暗記科目を勉強するようにしていました。

#### ■卒業生

少し面倒くさがりなので、勉強を後回しにしないように気をつけていました。例えば、多くの課題が出て、土日で終わらせるように言われた場合は、金曜日から手を付けて少なくとも日曜日の夜には先送りしないようにしていました。私はサッカーが好きでファンのチームがあったので、そのチームの試合が始まるまでに勉強を終わらせるなど、自分がやりたいことを我慢しないと決めていました。楽しみがないと勉強できないタイプですね(笑)。

### 高校生に進路選択のアドバイスをいただけますか？

#### ■先生

自分の思い通りの人生になることは、そんなにあることではないんです。ですから、好きなことを見つけて悔いのないように勉強した方がいいですね。業績が好調な会社は、いつまでもそれが続くわけではありません。次々に新しいことが出てくるので既存のマニュアルでは対応できません。今の時代は学生もそのご両親も、就職から逆算して、この大学院、この大学という風に選んでいます。それはあまり役に立たないのではないのでしょうか。

やりたいことをやって基礎力を付けていく方が、将来のためになるはずですよ。

企業は、自分で課題を見つけて、勉強して、答えを出していく人間を欲しがっています。そういう意味では本学のリベラルアーツには重要な意味があると考えています。専門性を高める前に幅広く勉強して、まず基礎力を付けていく。そういったプランで授業を選んでもらえれば大学側としても本望ですよ。

私自身は高校生の頃は勉強漬けの日々でした。しかし、先ほども言ったように自分以外の要因で入試自体がなくなってしまうこともあるわけです。しかしそれで人生が終わりかといえどそんなことはありません。成長するにつれて自分の志望が変わる可能性もありますし、その時に他人に責任転嫁せずに、「自分で選んだ」ということが一番大事なことです。



滞在型図書館は、学生に大変人気があります。

## 高校の頃の勉強と将来のつながりをどう考えればよいでしょうか？

### ■先生

それは私たちの時代にも言われていました。「こんなことをして何になるのか」と聞くと、そんなことを考えているヒマがあったら単語のひとつも覚えろと（笑）。

高校生の悩みは理解できますが、たいていの人はずぐに結果には結びつきません。自分の学んだことが実を結んで一生の仕事にできる人は、ほんのひとにぎりの人でしょう。だからといって勉強が意味を持たないのではなく、どこかで役立つと考えて頑張ることです。

### ■卒業生

国語ができなければ本も満足に読めませんし、世界史や現代社会を勉強しなければ授業についていきません。また、国際関係を学ぶのであれば英語は絶対に必要です。こう考えると高校で培った基礎的な学力はあとで必ず役に立ちます。

## 最後に、東京女子大学を目指す学生にメッセージをいただけますか。

### ■先生

本学が開催している父母懇談会に出ていると「リベラルアーツとは？」とよく聞かれますが、私は常に「職業とは結びつきません」と言っています。

医学部に行けば医者になるでしょうし、法科大学院に行けば多くの方は司法試験を受けるでしょう。その点、リベラルアーツがすぐに結びつく職業は特にありません。しかし、意思さえあれば何にでもなれます。本学の卒業生には法科大学院に行く人もいれば、大学院生になる人もいますし、新聞記者として首相番になって頑張っている人もいます。なんでもできるということです。

東京大学の駒場キャンパスにも教養学部がありますが、なぜその学部を創るのかと聞かれた時に、当時の責任者の教授は「何も心配するな、法学部などに行った人間と同じだけの知識と学力をつけてやる」と、おっしゃっていました。おそらく本学も同じ想いを持っているはずですが、何をやりたかがまだ明確でない人は、まずここに来てください。いろいろな科目があり、熱心に指導してくれる教員もおり、それだけの受け皿の広さを持っているため入学後に可能性が伸びます。一生懸命頑張ってくれば、ほかの数ある大学と同等かそれ以上の学力を身につけることができますし、それができる場所だと思っています。

## ●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

### 黒川修司先生

東京女子大学現代教養学部 教授

神奈川県立鶴見高等学校出身。横浜市立大学文理学部卒業。一橋大学大学院法学研究科修士課程、博士課程修了。一橋大学法学部助手、東洋大学経済学部専任講師、ミシガン大学客員教員（1年間）、横浜市立大学文理学部教授、同大文理学部改組後国際文化学部学部長を経て、東京女子大学現代文化学部教授、同大現代文化学部改組後現代教養学部教授、学部長。



■卒業生

### 青井優佳さん

東京女子大学大学院 人間科学研究科 人間社会科学専攻 博士前期課程 2年生 (2015年度取材当時)

私立大分東明高等学校出身。東京女子大学現代教養学部国際社会学科卒業。東京大学大学院進学予定。将来は研究職を志望し、「身体と社会」について、自身の経験を社会に還元したいと考えている。



■大学生

### 村井桃佳さん

東京女子大学現代教養学部国際社会学科 3年生 (2015年度取材当時)

東京都立八王子東高等学校出身。3年次は「ベトナムと人身取引」や「ベトナムの政治体制」について研究。国連ブリーフィングや十大学セミナーなど、外部での活動にも積極的に参加し、国際関係学への学びを深めている。